

株式会社白滝有機産業

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年9月1日～ 2024 年8月31日)



認証番号0002104



発行日： 2023年9月12日
改定日： 2024年11月6日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
許可の内容	6
廃棄物処理フロー	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組結果とその評価	9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	12
緊急事態対応訓練	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	13
これまでの環境活動の紹介	13

製品紹介

バイオ有機



主に動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできる堆肥です。
ガーデニング、花木、野菜・果樹類、ハウス生産物等幅広く使っていただけます。
(岡山県エコ製品認定 岡エコたい肥 第1号)

ハイブリッドスーパー



主に動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできる堆肥です。
ガーデニング、花木、野菜・果樹類、ハウス生産物等幅広く使っていただけます。

ハイブリッド緑化用



主に汚泥、動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできるたい肥です。
一般造園関係、芝、ガーデニング、花木などに向く 堆肥です。

I. ごあいさつ

環境経営方針

<環境経営理念>

株式会社白滝有機産業は、われわれの日常生活や企業活動から発生する有機性廃棄物を高品質の完熟たい肥や炭化物に変え、環境にやさしい有用資源として社会に還元することを通じて、資源循環型低酸素社会の構築に貢献します。

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。
 - ①受託処理量の安定的確保
 - ②環境配慮型製品の製造・販売の促進
 - ③電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ④廃棄物の削減
 - ⑤水使用量の削減これらについて環境目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。
2. 近隣住民の不安を解除します。
3. 環境関連法規及び当社が同意した事項を遵守します。
4. 産学連携により、需要家のニーズに合ったたい肥造りに努めます。
5. 従業員に対し、環境教育を実施し、環境保全に関する意識の向上を図ります。
6. 地域社会と積極的にコミュニケーションを図り、地域に密着した事業活動を行い、地域の環境保全に努めます。
7. 全従業員に対し、この行動指針を周知徹底させるとともに、社外にも公表します。

制定日：2017年6月1日

改定日：2022年7月21日

代表取締役社長 中村 雅亘

II. 組織の概要

更新日：2024年10月15日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社白滝有機産業
代表取締役社長 中村 雅亘
- (2) 所在地
本社 〒701-1221 岡山県岡山市北区芳賀5316番地
TEL：086-286-9035 FAX：086-286-9036
工場 〒709-4251 岡山県美作市白水1303番地
TEL：0868-75-0378 FAX：0868-75-2610
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 中村 雅亘 TEL：0868-75-0378
E-mail：factory@shirataki-bio.co.jp

- (4) 事業内容
産業廃棄物処分業（中間処理）、肥料製造・販売業

- (5) 事業の規模

法人設立 平成3年3月10日
資本金 2000 万円
売上高 45708 万円（2023年度）

2023年度実績			
従業員	15名		
延べ床面積	38,696㎡		
受託した産業廃棄物			
収集運搬量	0 t		
中間処理量	27,366 t	うち再資源化量	27,366 t
最終処分量	0 t		
中間処理後の産物の処分量	0 t	うち再資源化量	0 t

車両	台数	備 考
10tダンプ	1 台	いすゞ
7tトラックロール	1 台	日野
4tダンプ	1 台	日野
4tユニック	1 台	いすゞ
合計		4台
重機	台数	備 考
ホイロローダー	9 台	
リフト	10 台	
油圧ショベル	1 台	
合計		20台

主な処理施設		
名称	内容	備考
混合施設	受け入れた原料を副資材と混合してたい肥化に適した状態にする。	屋内型コンクリート仕様
一次発酵施設	通気設備の整った槽に混合した原料を投入します。通気により強制発酵を行い、リサイクルマシーンで攪拌を繰り返します。約1か月間の発酵管理を行います。	屋内型コンクリート仕様 2m×3m×50mのコンクリート仕様を10レーンで構成しており、発酵槽下部から24時間体制で通気を行っています。発酵槽上部は、リサイクルマシーン（4機）が稼働しており、たい肥を攪拌する仕組みになっています。
熟成施設	堆積方式による二次発酵管理を行います。ホイロローダーによる天地返しを繰り返し、約4か月の熟成期間をようします。	屋内型コンクリート仕様 通気設備完備（2967㎡）
製品梱包施設	完熟したたい肥を粒度選別し、袋に詰め出荷します。	粒度選別機 13mm 15mm 梱包機 200 400 フレコン詰め設備
炭化設備	完熟したたい肥を粒度選別し、袋に詰め出荷します。副資材を取り除いたものを炭化します。	ロータリーキルン方式による炭化設備1000kg/時間（2024年7月29日廃止）

III. 認証・登録の対象組織・活動

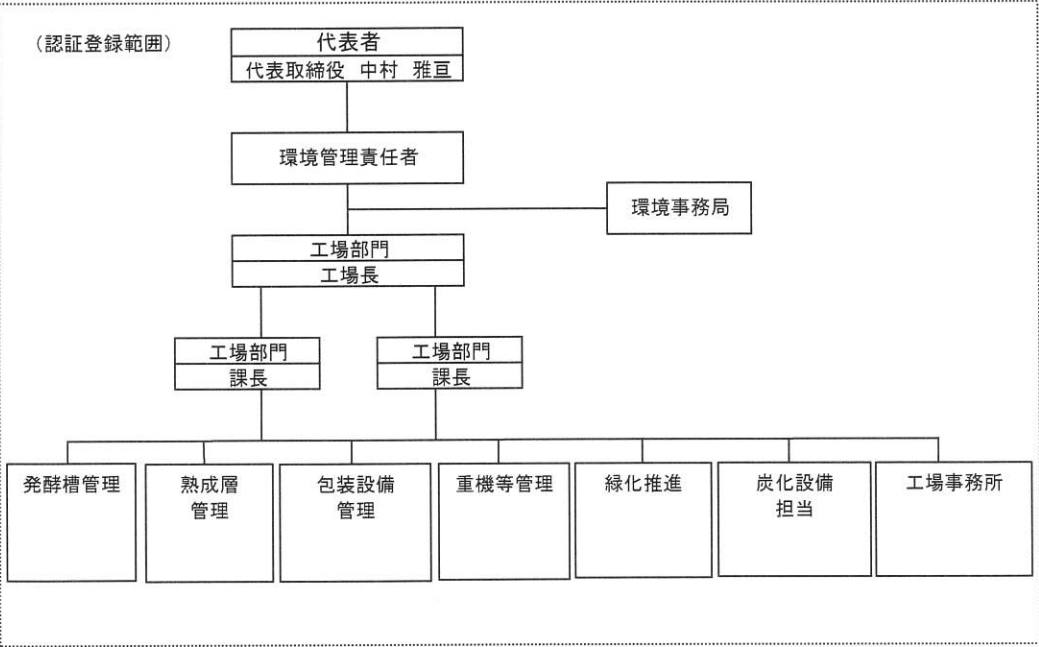
登録組織名：株式会社白滝有機産業
対象事業所：工場
活動：産業廃棄物処分業（中間処理）、肥料製造・販売業

IV. 事業の紹介



V. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2024年3月1日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営の課題とチャンスの整理、明確化 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
工場部門長	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

VI. 許可の内容

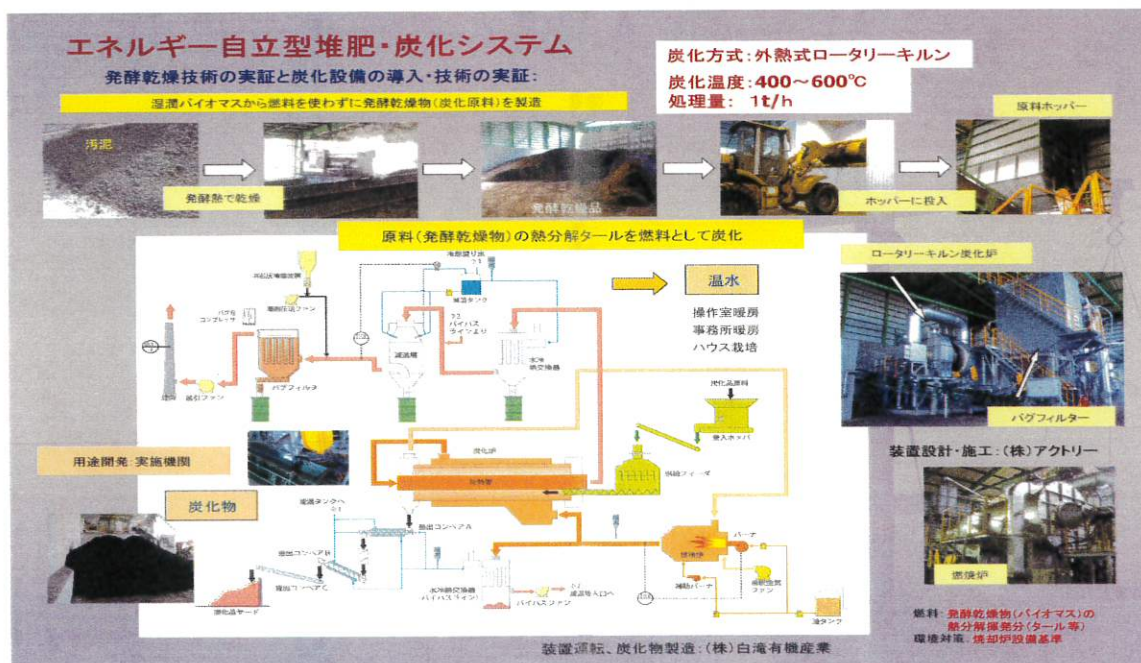
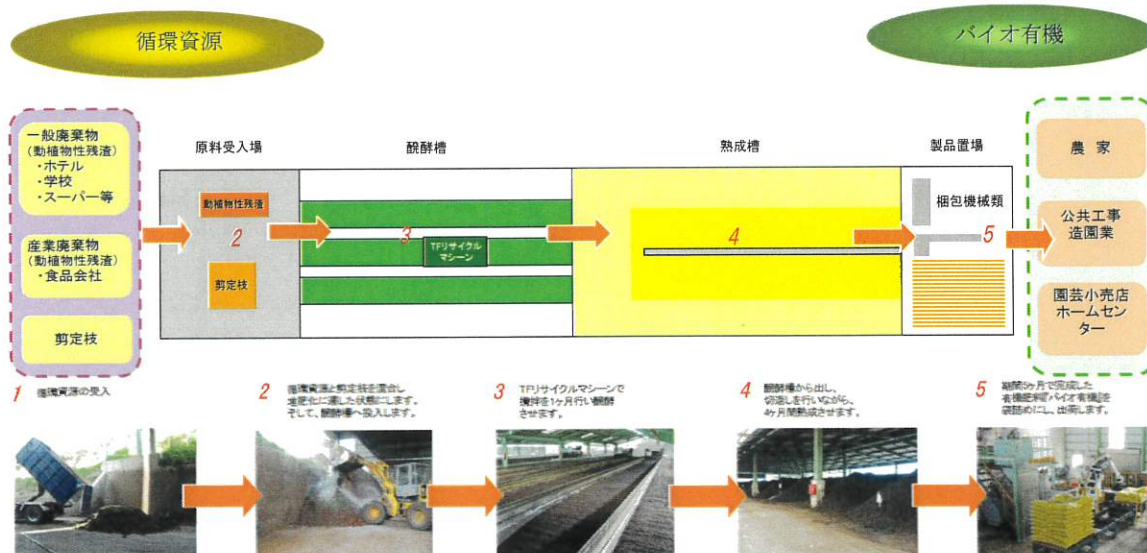
産業廃棄物収集運搬業許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類
岡山県	第03309009920号	令和4年7月3日	令和9年7月2日	無	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、木くず 動植物性残さ、動物のふん尿
兵庫県	第02806009920号	令和4年6月28日	令和9年6月27日	無	汚泥、動植物性残さ

産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類
岡山県	第03329009920号	令和4年7月6日	令和11年7月2日	中間処理 (発酵による肥料の製造、発酵乾燥・焼却(炭化)による炭化物の製造)	燃え殻 汚泥 廃油 廃酸 木くず 動植物性残さ 動物のふん尿
					○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

VII. 廃棄物処理フロー

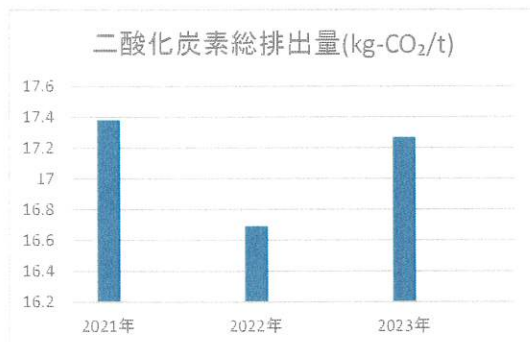
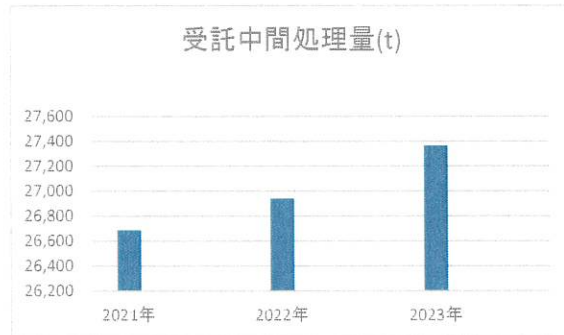
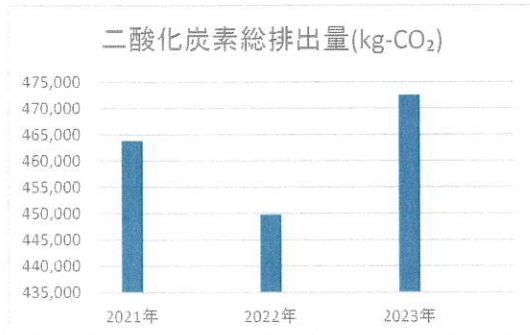


Ⅷ. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	463,919	449,842	472,627
受託収集運搬量	トン	0	0	0
受託中間処理量	トン	26,689	26,945	27,366
受託最終処分量	トン	0	0	0
廃棄物排出量	kg	107,586	97,669	145,563
一般廃棄物排出量	kg	28,986	22,768	21,423
産業廃棄物排出量	kg	78,600	74,901	124,140
水使用量	m ³	1,447	1,225	918

※1. 二酸化炭素排出係数 0.334 kg-CO₂/kWh 関西電力の2018年度の実績値(調整後)を使用

※2. 化学物質の使用はありません



※受託中間処理量当たりの二酸化炭素排出量

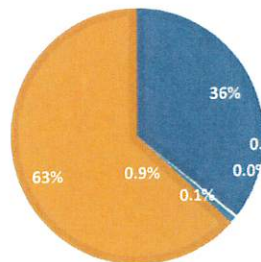
IX. 環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	基準値	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	189,936	188,037	168,409	○	186,138	184,238
	kw	568,672	562,985	504,219	○	557,299	551,612
	基準年度比	2022年	99%	89%		98%	97%
A重油による二酸化炭素削減	kg-CO2	4,688	4,641	0	○	4,595	4,548
	L	1,730	1,713	0	○	1,695	1,678
	基準年度比	2022年	99%	0%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	847	838	971	×	830	821
	L	340	337	390	×	333	330
	基準年度比	2022年	99%	115%		98%	97%
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO2	430	425	508	×	421	417
	m ³	143	142	169	×	140	139
	基準年度比	2022年	99%	118%		98%	97%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	253,941	251,401	302,739	×	248,862	246,322
	ℓ	98,592	97,606	117,519	×	96,620	95,634
	基準年度比	2022年	99%	119%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	449,842	445,343	472,627	×	440,845	436,346
一般廃棄物の削減	kg	68	67	63	○	66	65
	基準年度比	2022年	99%	94%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	85,680	84,823	124,140	×	83,966	83,110
	基準年度比	2022年	99%	145%		98%	97%
受託廃棄物のリサイクル率の向上	%	100%	100%	100%	○	100%	100%
	基準年度比	2022年	100%	100%		100%	100%
水道水の削減	m ³	1,225	1,213	918	○	1,201	1,188
	基準年度比	2022年	99%	75%	○	98%	97%
環境に配慮した製品の販売促進	t	8,964	9,054	10,768	○	9,144	9,233
	基準年度比	2022年	101%	120%		102%	103%
地域に密着した事業活動	実施				○		
	基準年度比						

※1ここに記載された一般廃棄物の削減の量は焼却場に持ち込まれた物のみ。その為、主な環境負荷の実績の値とは異なる。

二酸化炭素排出量の内訳(2023年度)

■購入電力 ■灯油 ■A重油 ■液化石油ガス(LPG) ■ガソリン ■軽油

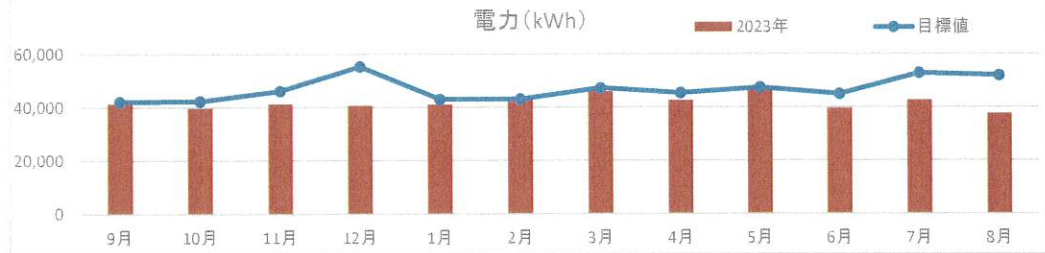


X. 環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標: ○達成 ×未達成

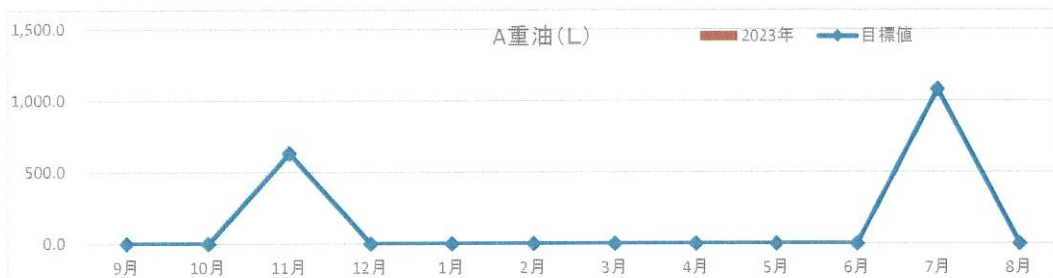
活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	炭化炉の休止や日々の努力などにより、累計として目標を達成することが出来た。2月寒い時期にエアレーションフロアの稼働により目標も未達成もあった。今後も節電に取り組んでいく。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・設備機器の空運転防止	○	
・未使用箇所の消灯	○	



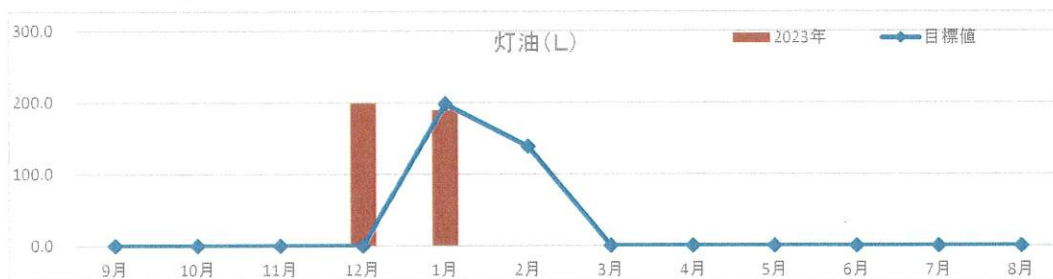
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	42,313	42,495	46,283	55,445	43,069	43,153	47,318	45,405	47,505	45,084	52,925	51,991	562,985
2023年	41,569	39,836	41,456	40,885	41,193	43,734	46,038	42,646	46,600	39,706	42,847	37,709	504,219

A重油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	10月炭化炉の休止、7月炭化炉の廃止のため、目標数値達成。
・節約ステッカーの掲示	○	



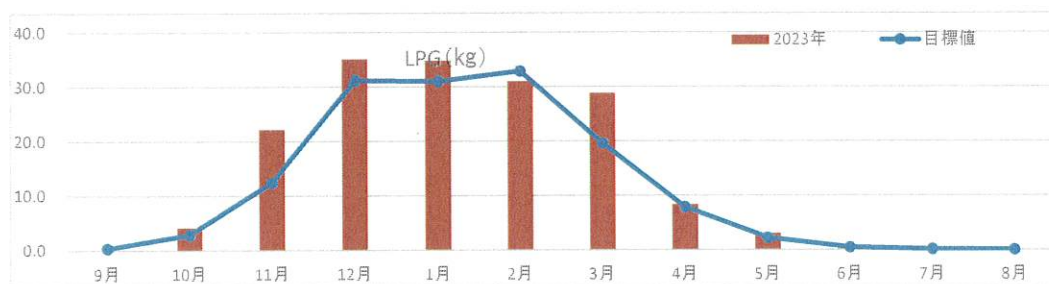
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	0.0	0.0	633.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,079.1	0.0	1,712.7
2023年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	月次目標数値はほぼ達成しているが、12月と1月の寒い時期に洗車やストーブの使用頻度の増加により、累計として目標数値が未達成。従って、今後はストーブの設定温度の厳守と洗車機の使い方にもっと工夫して、灯油の節約に努力するよう取り組んでいく。
・気温管理による暖房制限	○	
・不要時消火	△	



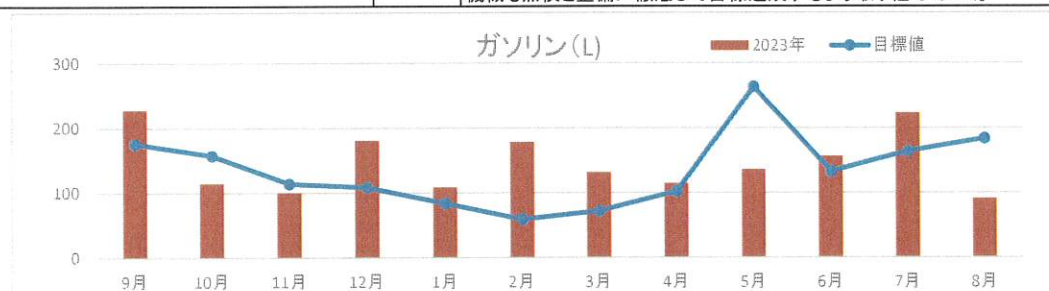
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	198.0	138.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	336.6
2023年	0.0	0.0	0.0	200.0	190.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	390.0

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	冬季におけるシャワーや手洗い等で温水利用が増えたため、月別として累計としても目標未達成が目立つ。手洗いの頻繁さや、シャワーする回数の増加などの原因が考えられる。今後、給湯器とエアコンを点検し、しっかり整備して機器の効率を向上することを目指し、燃料の効率をよくなるよう取り組んでいく。
・設備の空運転防止	△	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	0.4	2.9	12.5	31.3	31.1	33.0	19.7	7.9	2.3	0.5	0.2	0.1	141.8
2023年	0.2	4.2	22.2	35.2	34.9	31.1	28.9	8.4	3.1	0.7	0.2	0.2	169.3

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	海外へ出荷の増加により、工場から少し離れた倉庫に商品運ぶことが増え、社用車の使用回数が増加し、ガソリンの使用量が増加して全体的に目標未達成。また、ホイールローダとフォークリフトが増車したため、軽油の使用量も増え目標未達成。対策として、商品を効率よく倉庫に運ぶことに工夫し、ホイールローダなどの運搬機械も点検と整備に徹底して目標達成するよう取り組んでいく。
・アイドリングストップ	△	
・適正な車両の整備	△	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	176	158	114	109	84	60	72	102	264	133	164	184	1,621
2023年	229	116	101	181	109	179	132	115	137	157	224	91	1,770



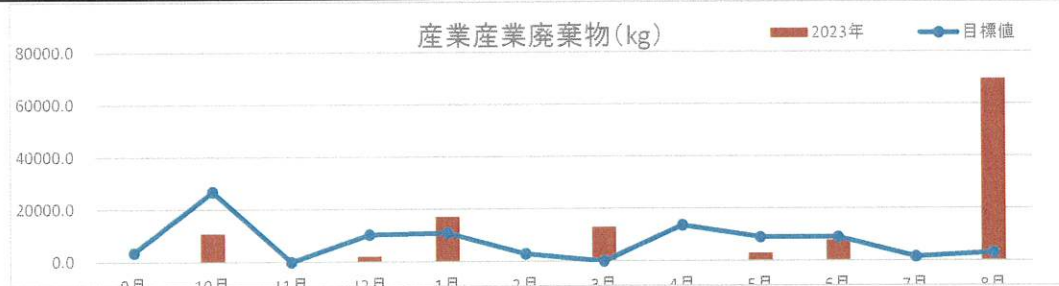
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	7,333	7,645	8,051	7,436	8,005	8,422	7,992	10,435	8,003	6,874	7,631	8,159	95,985
2023年	10,623	9,025	10,824	10,740	9,676	10,005	10,952	9,469	9,915	7,241	9,568	7,712	115,749

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	ゴミの分別や梱包材の再利用などに徹底して、目標を達成できた。今後も引き続き取り組んでいく。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	



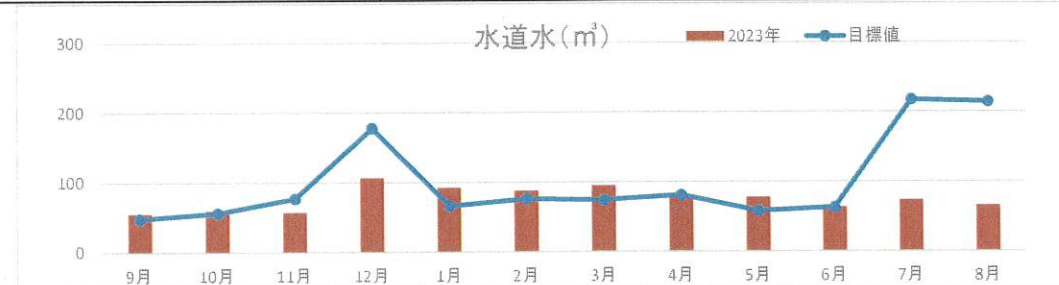
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	2.9	3.8	3.1	5.1	3.1	3.2	9.5	3.3	6.6	6.2	10.7	9.4	66.8
2023年	2.8	3.5	3.0	4.8	2.9	3.0	8.9	3.2	6.3	5.9	9.7	9.3	63.3

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	7月に炭化炉を廃止したため、8月中金属くずの搬出が多く増加し、月次目標と共に累計目標も未達成となった。これからは金属くずの搬出が減る見込みであり、その他のプラスチック類の産業廃棄物の搬出に注意を払い、できる限り搬出の減少に取り組んでいく。
・選別によるリサイクルの推進	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	3554.1	26878.5	0.0	10345.5	11028.6	2920.5	0.0	13671.9	9137.7	9137.7	1544.4	3108.6	91327.5
2023年	0.0	11070.0	0.0	2210.0	17220.0	0.0	13030.0	0.0	3050.0	7910.0	0.0	69650.0	124140.0

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	全体的に搬入の増加により洗車が増え、水の使用量が増え、月次目標未達成。また、手洗いが習慣になったため回数が増え水の使用量も増加傾向。今後は、現場を綺麗に、搬入車の汚れを最小限にし、洗車時間を短縮して節水に繋ごうよう努力していく。
・節水意識の向上	○	
・樹木水やりの効率化	△	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	49	56	77	178	66	76	74	81	58	63	218	215	1,213
2023年	56	60	58	107	93	88	95	79	78	64	74	66	918

環境に配慮した製品の販売促進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・市場・顧客情報の調査	0	春と秋は肥料販売旺盛期とし、海外出荷も順調であり、月別では未達成もあったが、全体的に目標達成と見なす。今後国内の販売の開拓と海外出荷の安定により、目標達成する見込みである。
・積極的な営業活動	○	
・自社農場による利用の推進	0	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	714	733	935	558	949	618	1,331	1,214	640	145	462	754	9,054
年	1,687	1,312	1,016	1,127	781	1,054	1,237	855	415	270	523	490	10,768

地域に密着した事業活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・近隣自治会との交流	○	年2回堆肥の配布を行い、5月に自治会との交流会を行い、4月に近隣地域の草刈もした。こうして自治会との連絡・交流・協力により、近隣住民の不安解消のみならず良好な関係を保つことができた。
・発酵促進し、好気発酵	○	
・エアレーション水分調整	○	
・発酵管理	○	

XI. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	産業廃棄物保管基準の遵守、マニフェストの管理と報告、技術管理者の設置
肥料取締法	肥料取締法に基づき表示
騒音規制法	空気圧縮機、送風機の届出
振動規制法	空気圧縮機、送風機の届出
大気汚染防止法	ばい煙量およびばい煙濃度の測定記録および保管
浄化槽法	定期点検の実施
食品リサイクル法	再生利用事業内容の掲示および料金の届出・公示
消防法（危険物）	消火設備と火災報知器の定期点検
フロン排出抑制法	業務用空調機の簡易点検の実施、記録、記録の保管

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

XIII. 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表取締役 中村 雅彦 実施日：2024年10月24日

年間を通じて受託量の増加できたことが、経営面からみても非常に良い年となった。受託量の増加に伴い、重機の増設を行ったことで燃料等の使用量が増加しているが、必然的なものであり引き続き現状の取り組みを継続させていく。また、7月に炭化炉を廃止したことにより使用電量が変わることで、今後1期の状況を確認し、基準年度を変更していく必要があると考えている。
処理後物（肥料）を海外市場への供給も順調に伸びており、今後更に受託量の増加が期待できる。重機類に関しては、古い物をすべて入れ替えたため（増台も含み）、燃費等も非常に良くなっているため、その部分での削減も多いに効率良くできていると思う。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり 実績を踏まえて見直す
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

XIV. これまでの環境活動の紹介

2013年度 消火訓練の様子



2014年度 美化活動の様子



2017年度 消火訓練の様子



2018年度 美化活動の様子



2019年度 消火訓練の様子



2021年度 消火訓練の様子



2022年度 消火訓練の様子



2023年度 消火訓練の様子



XV. 編集後記

受託及び製品の販売実績が安定して目標を達成する状況となっており、その状況に伴う、化石燃料使用状況を更に精度の高い取り組みとして、原単位による評価を検討する。